

## 会議議事録

会議名	2023年度第2回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会
開催日時	2024年2月13日(火) 13:30~15:30
場所	オンライン(本校会場:会議室)
出席者 (敬称略)	①外部委員:篠原陽子(一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会 ヘルス・アンド・ビューティケア人材育成センター事務局長)、三上真理子(株式会社ツルハ管理本部 人事・採用グループ課長)(計2名) ②本校委員:川口拓也(校長)、結城久美子(くすり・調剤事務科学科長)、渋谷大樹(くすり・調剤事務科教員)、榎原幸之(事務局長)(計4名) ③オブザーバー:前田律子(副校長)、清水之雅(くすり・調剤事務科教員) ④事務局:土方雄太、長尾勇介  (合計10名)
欠席者	なし
配付資料	事前送付:□資料1:2023年度第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会議事録(案)、□資料2:2023年度第1回委員会以降の主な経過、資料3:2025年度生カリキュラム(案)、資料4:2025年度生カリキュラム(案)変更点
議長	結城学科長
議題等	1. 委員紹介・挨拶 川口校長より、ドラッグストア業界も再編の話が出ているが、今はどの分野も人手不足で、早くも1年生が就職活動に入っている。高田馬場は外国人留学生が多いので、この辺りの可能性についてもご指摘をいただきたい。 今は非常に世の中が動いてきているので、次年度のカリキュラムに向けてご意見を伺いたい、との挨拶が行われた。  2. 2023年度第1回委員会議事録の確認(資料1) 議長より、前回の議事録について一部の字句の訂正を含めて確認を求めたところ、特段意見はなく、当該箇所を訂正した上で保存、公開することが確認、了承された。  3. 2023年度活動報告 ・2023年度第1回委員会以降の主な経過(資料2) 結城学科長、渋谷教員、清水教員より、資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。  4. 2023年度第2回委員会での討議事項 (1)2025年度カリキュラムについて(資料3・資料4) 結城学科長より資料3、4に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2024年度第1回委員会について

討議内容（予定）

(1) 2025年度カリキュラム確定のご報告

(2) 登録販売者や当校の認知度を高めるための取り組みについて

結城学科長より、次回の予定議題の説明が行われ、日程調整をすることとなった。

以上

2023 年度第 2 回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 2023 年度活動報告

- ・2023 年度第 1 回委員会以降の主な経過（資料 2）

○結城学科長、渋谷教員、清水教員より、資料に基づき説明が行われた。

1. 在籍状況
2. 就職内定状況
3. 2024 年度学生募集状況
4. 2023 年度登録販売者試験合格率
5. その他の試験合格状況
6. 2023 年度後期授業アンケート結果
7. 薬局・薬店実習
8. タブレットの申込み状況

（その他）・栄養関連の資格として、健康食品管理士を 2024 年度から導入する。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>（在籍状況について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な授業は、コミュニケーション系のものか。</li> </ul> <p>（学生募集状況について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の高校生は、デジタルイノベーション系が人気で、医療・福祉の分野に目を向けてくれる学生が減っている。</li> </ul> <p>（登録販売者試験について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツルハの合格状況はどうか。</li> </ul> <p>（薬局・薬店実習について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツルハの東京オフィスで実習をさせていただき、実際に働いている場所を見たり、話を聞いたりとできて、学生も喜んでいました。</li> <li>・実習に行く前に、自分自身でいろいろなドラッグストアに行って買物をし、質問をしてみるとよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション系の授業が苦手な学生は毎年一定数いるが、最近は目立つようになってきた。</li> <li>・登録販売者の認知度を上げて、医療人として活躍できるというアピールが不足していると思う。</li> <li>・モチベーションの高い人ほど合格している。←</li> <li>・全部の解答が分からないと正解を導けないような出題方法になっているので、しっかり学習していないと難しい。</li> <li>・1 年生全員に来ていただき、ドラッグストアで働くイメージや仕事のやりがい伝わったのではないかと思う。</li> <li>・今年からキャリアデザインという授業の中で、業界研究として実際に店舗に行って、発表もさせている。以前よりは知識を持って実習や就職活動に臨んでくれるものと期待している。</li> </ul>

4. 2023 年度第 2 回委員会での討議事項

(1)2025 年度カリキュラムについて (資料 3・資料 4)

○結城学科長より、2025 年度カリキュラムについて以下の説明があった。

- ・資格取得に特化した大幅な改訂を検討している。
- ・登録販売者試験を 1 年次に受験するカリキュラムとする。学習意欲の高いうちに受験できることと受験回数が 1 年次と 2 年次の 2 回になり、合格率の向上が期待できる。そのため、今までは 1 年前期から 2 年後期までであった登録販売者系の授業を全て 1 年の前期に持ってくる。
- ・夏季休暇中に全員参加の補習を実施する。
- ・それぞれの学期にメインの資格を決めて、集中して取得する。2 年次の 8 月に介護事務管理士、11 月に健康食品管理士、1 年次後期はメイクアップ系資格、2 年次後期は医療事務技能認定試験を中心に学習する。

○主な質問・意見等

質問・意見	回答等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動時に、登録販売者の資格を持っていたほうがよいか、その他の資格がたくさんあったほうがよいかを伺いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録販売者は必要な資格だと思う。働きながら取るのは大変なので、学生のうちに取っておくとよい。</li> <li>・ドラッグストアにおいては必須なので、登録販売者を持っているほうがよい。計画を立てながら難しい資格を取得したことで、社会に出ても即戦力になると判断する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの資格を持って就職活動に臨めるように 2024 年度にカリキュラムを変更した。今説明したカリキュラムをいつから変更するか迷っているので、ご意見を伺いたい。</li> <li>・1 年生のときに取れなかった人は 2 年生で取ってもらって合格率を上げていくという説明だったが、1 年次の合格率を何%にするという目標設定はできているのか。</li> <li>・それであれば早いほうがよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年生のときに資格を取らせたいのであれば、早めに変えたほうがよいのではないかと。重なる時期があると思うので、1 年生と 2 年生が一緒に模擬テストを受けるのも事前の練習になると思う。</li> <li>・具体的な目標は立てていない。基本的には 1 年次に 100%を目指して、取りこぼした学生を 2 年生で合格させるように、「現場で役立つ OTC 薬の応対」という科目で支援していく。</li> </ul>

<p>(その他意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、福祉の業界では、地域との関わり方が重要になっている。今後、ドラッグストアが地域の中でどういう役割を果たしていくのか、それぞれのお立場からお考えを伺いたい。</li> <li>・併せて、労働力として外国人の採用についてどうお考えか。</li> </ul> <p>・郊外型と都心型によって地域との関わり方も違うと思うが、健康相談など、拠点として来てもらうところから、逆に出ていくほうにもなるのではないか。</p> <p>・日本人だから、外国人だからということより、労働力をある程度確保していくことが業界にとっても大きなテーマだと理解してよいか。</p> <p>・ビザの関連もあるので、経験のある企業だと安心して卒業生を任せられる。大変ありがたいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラッグストアは、地域生活者の健康と美容の相談窓口を目指すのが基本だと思う。協会としても、行政や団体と連携してイベントを開くなど、地域の人とのつながりをつくっていきたい。</li> <li>・ドラッグストアで働く外国人は多いと思うので、学校としてはぜひ受け入れていただきたいが、登録販売者の試験は、読解力が必要になってくるので、きちんと受験対策をしないと難しいと思う。</li> <li>・食品を持って地域に出ていくとか、災害時のモバイルファーマシーなどが注目されている。過疎化して高齢者が買物に行けない地域などでは必要だと思うが、法律的な問題をクリアしないといけないのではないか。</li> <li>・弊社は、住宅地郊外型店舗と過疎地に店舗を必ずつくるという考えがあるので、お客様との距離は近いと思っている。災害協定を結んで地域との連携を進めたり、オンラインの服薬指導も行っている。</li> <li>・外国人に関しては、外国人でも登録販売者に合格できるレベルの人や日本語検定の1・2級を持っている人は合格している。</li> <li>・そのとおりだ。弊社は今年ベトナムに出店するので、将来的にベトナムに帰るのも良いかと思っている。今は、230名ぐらいの外国人従業員がいる。</li> </ul>
--	---

以上